~岩手県の「お元気発信」を持続可能にする~

平成31年度地域政策研究センター 地域協働研究【ステージⅡ】採択課題

課題名:岩手県における重層的見守りシステムの検討と構築

研究代表者: 社会福祉学部 教授 小川晃子※令和元年度 齋藤昭彦※令和2年度

課題提案者:岩手県保険福祉部地域福祉課

研究メンバー:齋藤昭彦(社会福祉学部)※令和元年度

小川晃子(研究•地域連携本部)※令和2年度

技術キーワード:お元気発信、ICT活用見守り、人的見守り、重層的見守り、持続可能性

▼研究の概要(背景・目標)

岩手県立大学では、高齢者の能動的な安否確認システムであるお元気発信に平成15年から取り組んできた(図1参照)。また、これを基盤として、様々な地域資源を活かした、ICT活用見守りと人的見守りの社会実験と実装も手掛けている。

ここ数年、県内の過疎地や被災地等では、 人的見守り資源が少なくなり、持続可能な見 守り体制づくりが課題となっている。

これを背景として、本研究では、お元気発信等のICT活用と人的見守りの重層化を図り、持続可能なあり方を検討し構築することを目的としている。

▼研究の内容(方法・経過)

岩手県・岩手県社会福祉協議会と連携し、 アクションリサーチを実施した。

コロナ禍の影響により、県内市町村社会 福祉協議会との連携は、困難を極めた。

▼研究の成果(結論・考察)

岩手県内の市町村社会福祉協議会の「お元気発信」取り組み実態からみて、市町村社会福祉協議会に対する次のような取り組み支援を行うことが、今後の課題である

- 1. 社協が住民の安否確認を行うことの社会的意義に関する認識形成
- 2. 市町村社協ごとの運用体制の整備
- 3. 持続的な取り組みが必要であることへの認識と体制整備
- 4. 「お元気発信」システム活用方策とその効果に関する情報共有
- 5. 他システムと異なる特徴についての理解形成

▼おわりに(まとめ・今後の展開)

コロナ禍により準備段階で終わってしまった市町村社会福祉協議会を対象とするワークショプ等を令和3年度以降に開催する予定である。

岩手県・岩手県社会福祉協議会には、連携への謝辞とともに、さらなる連携をお願いする次第である。

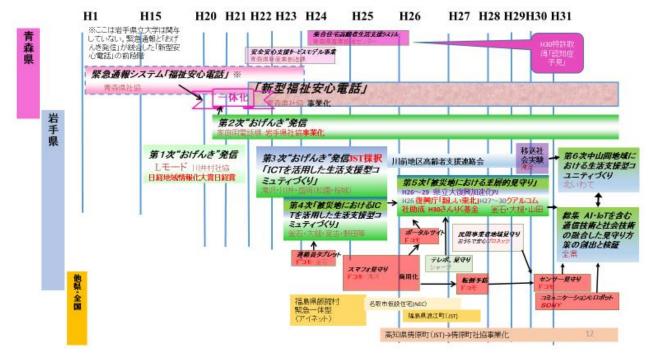


図1. 岩手県立大学における「お元気発信」等の取り組み概要